



### 中学校で、あっ、そうか！

「職業人の話を聞く会」という中学1年生の総合学習の時間で講師をお願いされ、話をしてきました。同じ内容を2クラスで話してくれということで、主に飼育員や獣医の仕事、さらには動物園全体の役割などを動物の話とからめながらしてきました。生徒たちは、こと動物の話題になると真剣に聞いてくれ、下手な話でいわゆる学級崩壊になるかと心配したのですが、まずはちょっと一安心。その中で意外だったのがチンパンジーの話。うちのチンパンジーの群れ構成を紹介したのですが、元リーダーでゴヒチという名のオスのチンパンジーの子供たちは、母親がみんな違う、というくだりになった時、教室が騒然となりました。一瞬ナンダ?と思いましたが「うわあ、不倫!」とか「じゅーこーん!」との声があちこちであがり、まさに学級崩壊一歩手前に(いや、大袈裟です)。あっ、そうか、そういうことか。人間の社会に照らしちゃってるんだ。慌てて「人間はやっちゃだめだよ。でもチンパンジーの社会では当たり前なんだ。」と、とりなしたものの、さてそのあたり前をどう説明すればいいのか、困ってしまいました。



《異母姉弟・・・父ちゃんはゴヒチ》

複雑な社会集団をもって群れを維持するチンパンジーには明らかなペア関係はないと言われてますし、ゴリラなども一夫多妻型。かと思えばテナガザル類は一夫一妻型だし、オランウータンなどは基本群れをつくらず単独で行動します。つまり同じ類人猿でも社会構成がそれぞれ違うわけで、その中で子孫を残す方法がたまたまその種にとっては適していたという事なのでしょう・・・なーんてことを話しても、きっとよくわからないでしょうねえ。かくいう私も、これで説明できたとは思っていません。もちろん人間社会で決められたルールには従わなくてはなりませんので、中学生たちが見せた反応は間違っていないでしょう。むしろ正しく真っ当に育った中学生だったわけです。ただ、人間も含めた動物には様々な行動原理や生き方があるってことだけは知ってほしいと思うのです。動物界においては人間の行動だけが正しいというわけではない、という事を。



《複雄複雌》

動物園で仕事をしていると、人間の社会生活を規範にして動物との対比を問われる場面にはよく出会います。前回の「寒中動物園で思ったこと」なども、そのへんで感じたことを書きました。ほかにも、一頭飼育の動物がいると、「寂しくないですか」といった感想を頂くことも。もちろん群れで暮らす動物には複数飼育を旨とするのですが、中には群れをつくらない動物もいまし、繁殖を目指すにも様々な事情で単独を強いられる場合もあります。それを押しなべて「一頭では可哀そう」と思うのは人間の感情をそのまま動物に投影してる気がしてなりません。そう感じる優しい気持ちはとても大切だし、尊重したいと思いますが、様々な環境に適応して生き残ってきた動物たちは、人間の生活とは関わりなく進化してきたわけであり、人間の感情とは別次元で捉えていただきたいと思うのです。もちろん動物園側の説明不足もあるわけで、そうした場面ではしっかりと説明し理解してもらわなくてはならないと思いますが、春の陽射しが少しずつ増してくる中で、中学校の授業に出てみて（本当はその日土砂降りだった！！）そんなことを感じながら帰ってきました。（参考文献：「新しい霊長類学」京都大学霊長類研究所 編著）



《穏やかなチンパンジーの群れ社会》

2018年3月18日

## 過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)